

頑張る

# 農業法人

「宇治茶生産を若者に後継してもらうため法人化した」と語るのは和束町杣田地域の農業生産法人(有)前出製茶場代表取締役の前出守さん(62)。

20代の若い雇用者3人に、一定面積の茶園の管理を全面的に任せるなど、将来の法人経営者として継承を期待する。さらに地域の茶園管理を受託するなど、茶産地維持への役割を法人として担っている。

同町は鎌倉時代から、丘陵地で高品質の宇治茶を生産し、800年以上の歴史がある産地。同町の茶栽培面積は約592畝、茶農家は約310戸で、荒茶生産量は約1140トと、府内茶生産量の43%を占める主産地になっている。

茶農家5代目として、40年以上前に茶生産を引き継いだ前出さん。町内の若手仲間と共同製茶工場を設けて運営してきたが、1996年に独立して、製茶工場を造った。妻と2人で生産加工に取り組んできたが、妻が不調となり、当時高校生だった安井智也さん(26)をアルバイトとして雇った。安井さんが卒業の際、「やりがいがあるの

で茶をやりたい」と訴え、前出さんは若い声を重く受け止め、「和束の茶を守る」ため正規雇用に踏み切った。さらに雇用者が後継者につながるようにと、2003年4月に家族で法人化した。

前出さんと妻が役員で、娘2人と安井さんら合わせて7人が従業員として同社を運営する。

## (有)前出製茶場 和束町



美しい景観の茶畑を経営する前出さん(右から3人目)と若手スタッフ

### 若手茶業後継者を育成

## 受託などで産地維持・活性化

で20戸、秋番茶で40戸の加工を受託している。また、同社の茶園を使い、安井さんら若い雇用者3人が、30町から1・5畝の栽培管理を全て任され、経営の修行に取り組んでいる。

「意欲があるので良い茶となる。任せる面積も増やしたい」と前出さんは若手担い手に期待を寄せる。「作業は楽しい。将来引き継いでみんな茶園を守り広げたい」と安井さんは意欲を高める。

前出さんは「10年前より茶の単価が低く、生産資材は高いなどの課題があるが、製茶加工の受託料収入が経営を支え、全体として恵まれている。若者を育て、受託栽培をさらに増やし、茶葉を使った加工品開発を目指したい」と話す。

現在、茶園7畝を栽培 管理する他、2畝余りを  
 地域の農家から栽培受託 する。さらに同社の製茶  
 工場では一番茶、二番茶

▽(有)前出製茶場の所在地  
 〓 相楽郡和束町大字杣田  
 小字中杣田112。電話  
 〓 0774 (78) 2101。